

1. これまで ～活動を行ってきた中で気づいたこと～

今も継続して行っている活動

◎松名瀬干潟での生物相調査

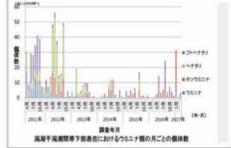
- ・今年度で11年目、主にウミナガ類を対象として、毎月1回継続して行っている。
- 継続して行ってきたことで、ウミナガ類の増減などの調査結果から、干潟の環境の変化や季節と関連付けて、仮説を立てたり、考察をすることができた。



松名瀬干潟
(国土交通省中部地方整備局)



調査の様子



調査結果のグラフ

先輩が行っていた活動

◎森林での活動

- ・森林の現状の調査や、伝統の林業の再評価、林業に携わる人の話を聞くなどの活動を行った。
- 森林と海のつながりや森林の現状などについて、知ることや考えることができる。



森林の調査



伝統的林業についての体験



林業家の方から話を聞く

◎発表

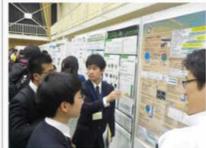
- ・生物相調査や森林での活動、環境教育などの活動の成果を様々な発表会や学会で発表を行った。
- 発表資料を自分で作ることで、より理解が深まる。また、様々な人と交流し、知識を深めたり、人間関係を拡大したりすることができる。



日本貝類学会



JST主催
中高生の科学部振興事業好事例発表



日本森林学会大会

◎環境教育

- ・海や森林について、自分たちの活動から学んだことや気づいたことを、自分たちでプログラムとして作成し、環境教育を行った。
- また、一昨年から、新たに地元の松阪もめんと海へのつながりについての環境教育も始めている。
- 自分たちの活動や自然の大切さ・奥深さ・興味深さ、海と身近なものをつなぐを伝えて、知ってもらえることができる。また、人に知ってもらえる喜びを感じることができる。



干潟での動物観察



ビーチコーミング



タッチプール (干潟再現)



緑のダム実験



森林での体験プログラム



松阪もめんと海へのつながりについての発表

2. 現状 ～自分が考えたこと～

今年度、行うことができている活動

- ・生物相調査・・・今年度も毎月1回、行うことができている

今年度、行うことができている活動

- ・森林での活動や発表、環境教育
- ・新しい活動

コロナ禍や休部の影響もあり、できていない

そのこともあり...

- ・活動に対する積極性・主体性が低くなった。
→活動が他人頼みになってしまうことや、自分から行動を起こせないことなどが増えてしまっている。
- ・発表する機会や、様々な人と関わる機会が減った。
→自分たちの活動について考え直すことや、活動から発展して、新たに学ぶことが減ってしまっている。
- ・科学技術部の活動に対しての理解ができていない。
→何をすべきかわかっていないことや、自分たちの活動を説明できないことが増えてしまった。

改善する方法の1つとして...

- ・これからの活動に明確な目標を持つ⇨これからのどんな(何の)活動をしていきたいかを考える
→明確な目標があれば、それに向かって積極的、主体的に行動を起こせる。またその活動をしていくことで、理解が深まったり、さらに発展できたりするなどの利点がある。

3. これから ～部員が行っていききたい活動～

中学生の部員にこれから何の活動を行っていききたいか、また、その活動を行いたい理由や利点をアンケートに取った。

(回答 1年生：9人、2年生：6人、3年生：1人)

- 1年生・・・科学技術部の活動をあまり知らない
→自分たちが活動している中で、気づいたり、興味を持ったりしたことについての活動を行っていききたい。(新たな視点)
- 2年生・・・先輩からこれまで行ってきた活動についての話を少し聞いた
→それをやったことがないので、活動に対しての理解を深めたり、新たなことに気づくために、今は行えていないけど、これまでに先輩が行ってきた活動を行いたい。
- 3年生・・・これまでに行ってきた活動の経験がある
→自分が行ってきた活動を様々な人に知ってもらい、海や生物についての興味を持ってもらえるような活動をしたい。

例 最近行えていなかった環境教育や発表を行う(2年)

- ・自分たちの活動を人に伝えていくことで、海や環境、生物に対しての興味を持ってもらうきっかけとなったり、自分たちがそれらに対してのしっかりと知識を持ったりすることにつながる。

例 生物相調査の結果から考察を行う(2年)

- ・今まで先輩方が建てた仮説について自分たちで考えることで活動や環境についての理解を深めることや、新たな考えに気づくことができる。

例 調査の時に、松名瀬海岸にゴミが多いことに気づいた

→松名瀬海岸の清掃活動を行いながら、広めていく(1年)

- ・松名瀬海岸の清掃を行い、その活動を広めていくことで、松名瀬海岸をきれいにしながら、海について興味を持ってもらうことができる。

活動につなげていくために

- ・コロナ禍でも、発表・環境教育を行う機会は、オンライン上での学会や交流会などがあるので、これからは、それを積極的に探し出して、参加していきたい。
- ・生物相調査の結果は、現時点で理解できていないところもあるので、わからないところを先輩に聞いたうえで、論文を読んだり、自分たちの経験から考えてたりして、考察していきたい。
- ・松名瀬海岸での清掃活動は調査の終了後に時間を決めて行うことができると思う。また、広めていくには清掃活動の企画を作成したり、行ったことをポスターにまとめて伝えたりする方法があると思う。
- ・アンケートを取って、学年ごとに視点がそれぞれ違うと感じたので、活動をしていく際にそれぞれの視点を生かしていくことで、さらに発展した活動を行うことができると思う。

4. まとめ

私たちが今までに取り組んできた生物相調査や環境教育、発表などの様々な活動は、環境や自然について新たに知識を得たり、考えを深めたりしながら、自分たちが成長できるものである。また、周囲の方々に環境や自然について知ってもらって、興味を持ってもらうきっかけになるものでもあった。しかし、現在はコロナ禍や今年度前半の休部などもあり、生物相調査以外のほとんどの活動が行えず、それもあり、部員の積極性や主体性が低くなってしまった部分もある。

これからは、今まで行ってきた活動や新たに行っていききたい活動に積極的に取り組み、自分たちを成長させながら、環境や自然についてたくさん発表したり、伝えたりして、興味を持ってもらえるような活動をしていきたい。

こどもエコクラブ壁新聞(2021年度) (横造紙サイズ用)

クラブ団体・グループ所在地

都 道 府 県 松 阪 市 区 町 村

三重

クラブ団体・グループ名

三重中学校・高等学校 科学技術部

(※調査結果発表用紙に記入してください)

(2021年度 応募作品) □幼児クラブの審査を希望